

令和4年度第1回 釜石市子ども・子育て会議開催結果（概要）

1. 日 時 令和4年8月3日（水）10：00～11：40
2. 開催方法 オンライン会議（Zoom ミーティング）
（開催場所 釜石市保健福祉センター 8階 傾聴ルーム）
3. 出席者等 <出席委員10人>
藤原伸哉委員、佐々木江利委員、松岡公浩委員、藤原けいと委員、八幡雅子委員、
八幡恭子委員、菊池利行委員、福成菜穂子委員、黍原豊委員、佐藤奏子委員
<市側出席者>
釜石市保健福祉部長 小笠原 勝弘
釜石市保健福祉部子ども課長 千葉 裕美子
子ども課 主幹兼子ども福祉係長 樋岡 悦子
次世代育成係長 菊池 喜子
次世代育成係 主事 川原 澄玲
釜石市保健福祉部健康推進課 課長補佐兼母子保健係長 川原 瑞穂

4. 経 過

（1）開 会

千葉課長が定足数を満たしていることを告げ、会議の開会を宣言した。

（2）副委員長挨拶

本日委員長欠席だったため、進行役をさせていただきます。初めての Zoom での会議ということで、不慣れな中での進行となりますけど、皆さんご協力のほどよろしくお願ひします。皆さんお手元に資料が届いていると思いますが、進捗状況を伺いながらご忌憚のないご意見を伺いたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

（3）議 事

①第2期釜石市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について（報告）

議事について、事前に配布した資料に基づき、事務局から説明し承認された。

②釜石市幼児教育振興プランの進捗状況について（報告）

議事について、事前に配布した資料に基づき、事務局から説明し承認された。

③第2期釜石市子ども・子育て支援事業計画 重点プロジェクトの進捗状況について（報告）

議事について、事前に配布した資料に基づき、事務局から説明し承認された。

④第2期釜石市子ども・子育て支援事業計画 重点プロジェクトに伴うアンケート調査の実施について（説明）

議事について、事前に配布した資料に基づき事務局から説明した。アンケート調査の目的について、依頼先や調査対象者に具体的に説明することや、調査対象者から自由記載の欄を作成し意見を聞いてみてはなど、様々な意見をいただいた。議事については承認された。

⑤その他

今年度の子ども課における事業実施状況及び報告等行った。

（4）その他

- ・アンケート調査の部分については、委員の意見を反映できるものは反映してアンケート調査を実施する。
- ・次回会議日程についての説明（11月頃を予定）

（5）閉 会

○主な議事での発言は以下のとおり

（1）釜石市幼児教育振興プランの進捗状況について

菊池利行委員： 個別の指導計画っていうのは各園とも共通なものを使っているのか。もう1点は、個別の指導計画を作る上で、諸検査などが入っていると思うが、保育士さんたちを補助するようなシステムになっているのか。

事 務 局： 1点目について個別の指導計画は共通の様式ではなく、基本的には園にお任せしてる様式になる。2点目について、子ども課に発達支援室がお手伝いをしている状況である。

（2）第2期釜石市子ども・子育て支援事業計画 重点プロジェクトの進捗状況について

黍原委員： 「③児童虐待に関する研修等への参加者数」に数字が入っていないのはなぜか。

事 務 局： 実際にはスタートしていないのが現状。

黍原委員： 主任児童委員だけではなく、支援に関わる様々な方々に参加していただきたい。

藤原伸哉委員： 本来であれば教育委員会サイドの話題にもなるのかもしれないが、子ども向けに虐待をテーマとして話をする機会がないと思うので、今後、子ども向けに話題提供してもらいたい。

藤原伸哉委員： 公園整備で年間いくらか予算を取られているのか。今回でなくても次回でも結構なんですけど。先のこの会議でも、かなり市内には公園の数が多いという割には、我々の目で子どもたちが遊んでいる様子があんまり見えない現状なので、そこに予算がいくらか取られているのかが気になる。

事 務 局： 金額は次回確認してお知らせする。予算は、老朽化している公園の更新が主になっていると思う。

（3）第2期釜石市子ども・子育て支援事業計画 重点プロジェクトに伴うアンケート調査の実施について

福成副委員長： 小・中・高校へのアンケートの実施の仕方は、各学校に届けて書いていただくのか。

事 務 局： 各学校へ用紙を配布して記入していただき、回収したいと思っている。

松岡委員： 広範囲にわたるので、取りまとめが大変だと思うが、このプロジェクトの走りだと思うし、貴重な資料になると思う。

藤原けい委員： 項目が結構多いので、いろんな意見が伝わってくるのかなと思う。

八幡雅子委員： 教育・保育施設に通う園児の保護者を対象したアンケートの実施方法は、各園に世帯数配布し、各園で回収をして、集まった分を子ども課の方に届けるような方法なのか。または、郵送で各世帯の方に配布、回収するのか確認したい。

事 務 局： 教育・保育施設へ通う園児の保護者に関しては、園の方をお願いして、回収できる分だけ回

収していただきたいと思っている。あと、未就園児の保護者に関しては、こちらの方で把握してる分だけですが、そこに関しては郵送で実施したいと思っている。

八幡恭子委員： いろいろなアンケートがありいいとは思いますが、周りの友達が、親子の関係があまりうまく自分ではなかなか言い出せないが、この友達が何か相談しているっていうような内容みたいなのがちょっと書けるようなのがあればと思う。ただ、誰が書いたかがわかると嫌だと思うので、集める際に封筒に入れて集めるとか工夫してほしい。

事務局： 今回、学校にお願いして、小・中学生はアンケートを実施するが、先ほど話があった虐待に関して、もし聞くのであれば回収の方法も考えたい。

高校生に関しては封筒に入れて回収してもいいのかなと思うので虐待のこと聞いてもいいと思うが、小・中学生は、質問して理解して書いてくるかという疑問もあるので、そこは検討したい。

藤原伸哉委員： ちょうど自分の子どもの年代から見たときに、小学生の子どもは遊び慣れたところをチェックすると思うが、公園で遊んでいる感じは、ほぼほぼない。だけど、月に1回行ったぐらいの公園も多分チェックするだろうと思う。だから、正直に言うところの部分で本当に子どもたちのニーズみたいなのはちょっと計りにくいかなと思う。もし詳細に確認するんだったら回数、頻度が必要だと思う。

大体自分の子どもの小学校同年代の子の様子を見るとやっぱり家で遊ぶ子が増えている印象がある。だから、何となくこのアンケートで実態を見るのは難しいかなと思う。

福成副委員長： 小・中学生に対して、質問の数や内容は、わかりやすく書ける範囲だとは思いますが、文章での質問をどこまで聞くかが課題かなと思う。子どもたちはどんなに小さくても自分の意見持っているのだから、その辺の声を拾えるのであれば貴重なアンケートになると思う。

佐々木江利委員： アンケートの集め方について、特別な支援を受けている方とか障害を持っている方たちの意見は分けて考えることも大切かなと思った。大きな数字の中の一つにしないで、やっぱりそういった方々の外遊びの満足度っていうのもしっかりと集めてもらいたいと思う。

公園に関しては、季節を分けた意見というのもあったらいいのではと思う。満足度とか、季節に応じた必要な施設に関する意見等もあると良いと思った。

菊池利行委員： 1点目、学校でこのようなアンケートを取るときに、アンケートを実施する目的などを子どもたちに説明をした上での実施が必要かと思う。

2点目、高校生の不安や悩みについて質問する欄があるが、プライベートな情報でもあるので、ここについてもどのように使われるのかという説明が欲しい。

3点目、公園内にどういうルールがあって、どういう遊び方ができるのか、また、砂場があるのかとかいろんな遊具が活用できるのか、今の子どもたちはどんなものが欲しいんだろうかというニーズを、大人が目じゃなくて、子ども目線から出してもらうようなアンケートであればすごく生かされるのかなと思う。

福成副委員長： 貴重なご意見ありがとうございます。子どもたちにこういう目的のためにこんなアンケート取りますよって先生が説明して、子どもたちが取り組めるような流れをちゃんと作るっていうのと、各公園のルールとかマナーについては、アンケートではなく道徳の時間とかで話ができると思うので、時間が短くてもいいですから話し合う時間を、先生方にも学校にもアンケ

ートをお願いするときをお願いできたらなと思う。

黍原委員： 前回のアンケートを取ったときに、最後に自由記述があり、様々な意見がたくさん書いていたので、今回のアンケートにも自由記述があった方がより皆さんの生の声を拾えるのではないかと思う。LINEでも自由意見をいただいてもいいと思う。

もう一つが、小学生のアンケートの目的がぼやっとしていてちょっと見えないところがある。この1枚のところには、子どもたちの、遊び場、居場所の内容の調査を行い、進捗状況を確認する必要があるけども、どういう仮説を持って、このアンケートを実施するのかということももう少し議論があってもいいかなと思う。もちろん状況把握するっていうのもあるけども。今後こういうことを進めるために、こういうことを知りたいとか、あんまりあやふやな感じがするので、ただ実施して終わりにならないのかなと思った。

事務局： プロジェクトの進捗状況の確認ですとか、どういった方向に進んだらいいかというところで、利用者の思いや実態を知らなきゃいけないよね、ということからアンケートを実施しなければということになった。現状を知りたいっていうのがまず一番である。

どういう聞き方したらいいのかとか、というのがあればそれを補っていきたいと思うので、ご意見あればそういう部分にご意見をいただきたい。

黍原委員： 多分全体をざっくり把握する上ではこのアンケートでいいかもしれないが、公園をどれぐらい利用してるんだろうかっていうのは、逆に現場で観察するとか、公園に来てる子どもたちにちょっとヒアリングしてみるとか、生の声を拾う部分もあって、時期があるのでちょっと難しいですけども、その上で補完する上で何かもうちょっと調べてみようみたいな流れだったら本当は良かったのかな。子どもたちの実態がまだまだ全然見えない中で進んでいくっていうのと、後でもいいので、何かそういう子どもたちの姿が立ち上がってくるような調査やヒアリングなど、より凝ったものが、より今後のプロジェクトに反映されるのかなと思った。

あと最初に言った仮説というか、もちろん実態とかもあるけども、大人たちの思いみたいなものも、釜石はこういう子育ての居場所だったり、取り組みが必要なんだっていうところを、もう少し僕らも話し合う必要があるのかなと思う。

佐藤委員： アンケートだが、これを細かくとっていけば、大きな枠組みだったり、実態というのが取れるのかなと思った。

それで、この会議や子どもに関わる施設だけではなく、例えば市の施設や様々な部署で、アンケート結果の情報を共有するだけでも、他の施設等でも子どもたちの動向がわかることで、何か多様な動きだったり、それぞれのステップアップや連携などが生まれて、非常にいい効果が出るのではないかと感じた。

黍原委員： この子ども・子育て会議で何度も話してることだが、ハードだけ作って終わりという時代ではなくなっていると思っていて、多分子どもたちの暮らしてる社会そのものが変わっていき、昔は縦でいろいろ繋がりがあって、ガキ大将みたいなのが居て、お兄さんお姉さんからいろいろ遊びを教えてもらいながら異年齢で遊ぶみたいな機会が無くなってる現代の中で、そういうのを繋ぎ直すようなことが必要じゃないかと思う。

公園だけあればいいのかということと全然そうではない。プレイリーダーみたいな人がいたら

いいんじゃないかなって話をして、もし公園整備に使っている予算を減らしてでも、そういう人を配置するとか、前の会議でも話題提供したが、上中島児童館が学童的になっているけども、そういうのをやめて、その人たちが現場に入ったりとかするとか、大きく何か変えていく時代じゃないかなと思う。昔からのやり方でやっていけばいいということじゃないと思うので、それをぜひ議論していただきたい。

事務局：前に提言いただいていたので、そういうのも視野に入れながら考えているところです。

それから公園がすごく多いということで、子ども課の管轄の児童遊園については、使用されていない場所を閉鎖したりしてました。

ですから、本当に子どもが生まれてないところで公園がこんなに必要なかっていうところもあるので、これからどうやって使用していくのかなど、この会議でどんどん意見をいただきたい。

(4) その他

黍原委員：子どもの居場所づくり事業についてですが、これは昨年度実施した報告ですか。

事務局：昨年6月から実施していて、今年度も実施している状況です。

黍原委員：昨年度の部分について、どれぐらいの子どもたちの利用があったとか、どれくらい開設したのとか、どんな状況だったか知りたい。

事務局：学習支援ですが、2本柱なっていて、市内の中学生、主に3年生に対する進学に向けた学習支援と、あとは、小中学生及び概ね18歳までの不登校の児童生徒さんで、親御さんが希望したり、学校から繋がって学習支援を受けたいっていうようなお子さん方に対して行ったものです。

中学生に向けての学習会は、学校の夏休み、冬休み、受験前の時期、学校の行事などをすり合わせながら対応した。実施したのは、5校中4校になる。

その学校によって希望回数がバラバラなので、長期休みだけ利用した中学校もあれば、近くの公民館で実施したりなど学校ごとに回数はバラバラな状況。

不登校の子に関しては、公民館とかパブリックスペースに来ていただき、なるべく家から出て、そこから学校に通えるような形になればいいと思い対応した。

昨年度から不登校支援を受けていたお子さんで、去年対応してそのまま教室に戻っているお子さんもいますが、まだ教室に戻れていないお子さんに関しても支援を続けている。

黍原委員：どれくらいこの事業が知られてるのか、また、どこまで利用されているのか気になった。

福成副委員長：生徒を指導するのは、委託した団体や大学生だったり先生方だったりってことで理解していいんですか。

事務局：委託先は「子どものエンパワーメントいわて」というところで、復興期間に沿岸地区に学習支援に入っていた団体です。

福成副委員長：これは当然各学校の小・中学校の先生方は知っているのか。そして、昨年6月から実施して、450万円あって、その残りを今継続して事業が続いてるっていう理解でよろしいですか。それとも今年度の事業として450万円なのか。

事務局：学校へは校長会議で説明した。予算は今年度の事業として450万円を計上している。